

平成 27 年 6 月 3 日現在

機関番号：12501

研究種目：基盤研究(B)

研究期間：2012～2014

課題番号：24380119

研究課題名(和文) テーマ・コミュニティ化する農村における経済多角化活動とその評価に関する研究

研究課題名(英文) Research on Economic Diversification and its Performance in the Theme Communitized Rural Society

研究代表者

櫻井 清一 (Sakurai, Seiichi)

千葉大学・園芸学研究科・教授

研究者番号：60334174

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 13,900,000 円

研究成果の概要(和文)：本研究では、地域外に居住する消費者などを利害関係者として取り込んだ地域社会のあり方を「テーマ・コミュニティ」ととらえたうえで、テーマ・コミュニティ化が進展する農村での経済多角化活動の発展の実態を具体的に捉えるとともに、その成果をわかりやすい手法・指標で評価することを目指した。利害関係者の多様化に伴い、テーマ・コミュニティが想定する地理的範囲は海外まで広がっていること、同時に域外の関係者の活動が農村住民に刺激を与え、新たな経済活動を生み出していることを解明した。また活動の成果をDPモラル法を用いて視覚的に説明する手法を試行した。

研究成果の概要(英文)：The new type of community which includes stakeholders who live outside the target community is called "Theme Community". This study aimed at investigating the development of economic diversification in the rural society which was characterized as theme community, and evaluating the economic and social impacts of rural diversification by an integrated framework. The geographic boundary of the theme community has extended globally. The outside stakeholders' engagement stimulated the rural residents and boosted new economic activities. DP moral method was also introduced to evaluate the performance of rural women's innovative activities.

研究分野：農業経済学

キーワード：農村多角化 農業経営 農業経済学 テーマ・コミュニティ

## 1. 研究開始当初の背景

活力ある地域社会や集団を、地理的近接性にこだわらずに時間・関心・経験を共有する人々により構成される「テーマ・コミュニティ」としてとらえる動きが高まっている。経済多角化活動が展開している農村地域でも、顧客、都市住民、出稼ぎ者らが農村住民との関係性を深め、多角化活動の利害関係者として運営に関わることも散見される。ただし農村での多角化活動は移動不可能な地域資源や経験知を核としている場合も多く、やみくもにテーマ・コミュニティの構成員や地理的領域が拡大することも想定しにくい。農村でのテーマ・コミュニティ化の拡大プロセスの動態を正確に把握することが求められている。

また、農村経済多角化の進展がある程度定着しつつある現在、その経済的および社会的成果を統合的に把握することが求められている。しかし既存研究では、個別経営体レベルに比べ地域レベルの多角化成果分析は蓄積に乏しい。また経済的成果に比べ社会的成果を定量的ないし視覚的に把握する手法ないし枠組の開発が遅れている。

## 2. 研究の目的

農村のテーマ・コミュニティ化の過程を具体的に明らかにするとともに、当該農村で展開する経済多角化活動がテーマ・コミュニティ化により受ける影響を分析する。さらに多角化活動の経済的成果と社会的成果を統合的に把握する分析枠組の構築を目指す。目的を達するため、以下の3点を具体的な研究課題とする。

(1) 農村におけるテーマ・コミュニティ形成の動態を国内・海外双方のケースで把握し、比較考察しながら、農村住民と地域外住民がどのように連携を構築しつつあるかを解明する。

(2) テーマ・コミュニティ化しつつある農村に展開する各種経済多角化活動とその運営組織が、域外住民と関与しながら、どのようにマネジメント方式を変化させているかを解明する。

(3) 多角化活動の継続により当該農村コミュニティ全体にもたらされた経済的および社会的効果を適切に評価する枠組を構築し、対象地で測定を試みる。

## 3. 研究の方法

上記3つの具体的な研究課題に取り組むため、構成員をコミュニティ系/マネジメント系/評価系に分ける。

(1) コミュニティ系では、まずテーマ・コミュニティ化する農村社会の変容プロセスの実態把握に努める。次に、当該農村における

組織形態と運営方式の変化を分析する。さらに、組織運営に参画する地域外の利害関係者の参入プロセスを明らかにする。分析に当たり、社会関係資本の分析手法の適用可能性に配慮する。

(2) マネジメント系では、アメリカの CSA、日本のオーナー制度など、地域外の利害関係者の関与が想定される多角化活動を対象として、個別にマネジメント方式の特徴とその時系列的変化を明らかにする。

(3) 評価系では、まず農林業センサスの集落データなど、全国統一ルールで把握できる農村生活ないし多角化活動指標を活用し、多角化や生活環境の変化についてマクロレベルの変化を分析する。次に多角化の社会的成果を数量的ないし視覚的に把握する手法を検討する。経済的成果指標と組み合わせ、多角化の成果を統合的に評価できる分析枠組を構築する。

## 4. 研究成果

(1) コミュニティ系の成果は以下の2点である。

高知県中山間地域にある女性起業組織の運営方式を分析し、顧客など地域外の利害関係者による出資を通じての運営参画が地域内住民を刺激し、組織運営を活性化しうることを解明した。

東日本大震災発生後の農村コミュニティ変容とボランティア参画による被災地住民との交流について予備的考察を行った。

(2) マネジメント系の成果は以下の5点である。

日本の農商工連携事業と6次産業化事業計画の導入過程を比較考察し、関係者の関心が大規模農業経営体個別の事業多角化に偏っていることと、主な事業が地域の原料を用いた加工に偏っておりサービス業との連携が弱いことを問題点として指摘した。

政策過程の分析および事例考察から、日本型グリーン・ツーリズムの特徴が、都市住民の反復的滞在を前提とした心理的交流や地域社会との関係性形成を重視する点にあることを解明した。

アメリカの CSA (地域社会支援型農業) の運営方式について、東海岸と西海岸の事例の比較考察を行い、1980年代の勃興期にとられていた運営方式は大きく変容し、製品の継続的供給・購買を重視するスタイルに変わっていることを明らかにした。それでも消費者側の食品安全性・環境問題に対する関心は高く、こうしたテーマを核とした生産者との直接コミュニケーションは継続していることも確認した。

インドネシア・ジャワ島における薬草資源の複雑な流通構造を考察した。多段階の流通経路が形成されていること、一次加工の機能

も担う産地商人の行動が品ぞろえや価格形成に影響力を及ぼしていること、品ぞろえのため大消費地から農村部へ産品が迂回する流通経路が存在することを解明した。また、葉草を出荷する農家は品種の多様化や出荷時期の微調整により価格変動リスクを抑える行動をとっていることを明らかにした。

中国内モンゴル自治区における放牧経営の多角化について、近年設置が相次ぐ牧民專業合作社の組織運営と組合員の経営への影響を中心に考察した。合作社では食肉加工、流通の内部化、放牧地の共同管理作業等を実施して組合員の収入増加や労働軽減に貢献しているが、現物出資制度が残るなど、組織としての持続性が乏しいことを明らかにした。

(3) 評価系の成果は以下の3点である。

農林業センサス小片データを利用して、離農者の多い農村が抱える地域属性を定量的に評価した。

DP モラル・サーベイ法を用いて集落組織および農村女性組織における労務環境を分析するとともに、組織運営上の課題を図形的に表示する分析枠組を構築した。

近年注目されている食料品アクセス問題について、GIS と統計資料を活用し食料品アクセス状況を可視的に把握するツールを作成し、過疎地域および東日本大震災の被災地にて試行した。

## 5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕(計 35 件)

ガナス・櫻井清一、中国内モンゴル草原地域における牧民專業合作社と社員の経営実態に関する考察、農業市場研究、査読有、Vol.24、No.1、2015、印刷中

久保雄生・櫻井清一、女性起業組織の特徴と組織運営上の課題、農村計画学会誌、査読有、Vol.33、2014、pp.275-280

栗原伸一・霜浦森平・丸山敦史、農業センサス個票を用いた離農要因の分析、農業情報研究、査読有、Vol.23、No.2、2014、pp.72-81

櫻井清一・横山繁樹、ジャワ島中部における薬用資源の流通構造、農業市場研究、査読有、Vol.21、No.1、2013、pp.52-58

西山未真、農村のコミュニティ再建におけるソーシャルビジネスの意義、農林業問題研究、査読有、Vol.49、No.2、2013、pp.427-433

新開章司・西和盛・横山繁樹・櫻井清一、米国における CSA の変容と新たな展開、農業経営研究、査読有、Vol.51、No.2、2013、pp.67-71

Kurihara, Shinichi et al., The Impacts of the Imperfect Storm on Northeast Japan, Sociology Study, 査読有、Vol.2、No.4、2012、pp.239-251

藤田武弘、グリーン・ツーリズムによる地域農業・農村再生の可能性、農業市場研究、査読有、Vol.21、No.3、2012、pp.24-36

〔学会発表〕(計 37 件)

Sakurai, Seiichi, Locally Produced and Locally Consumed Agriculture in Japan, 2015 International Symposium on Locally Produced and Locally Consumed Agriculture, 2015 年 3 月 16 日、台北市(台湾)

横山繁樹、マダガスカルにおける有機認証 SRI 米輸出の取り組み、平成 26 年度日本農業経営学会研究大会、2014 年 9 月 20 日、東京大学(東京都文京区)

Sakurai, Seiichi and Shingo Teraoka, Issues in the development of Agriculture-Industry Collaboration Programs, XIII World Congress of Rural Sociology, 2012 年 8 月 3 日、リスボン市(ポルトガル)

Shimoura, Shinpei, Farmers' Attitudes toward an Eco-Friendly Agriculture and its Future Challenges, International Symposium on Society and Resource Management Conference, 2012 年 6 月 21 日、アルバータ市(カナダ)

〔図書〕(計 11 件)

高橋克也・薬師寺哲郎、ハーベスト社、住民からみた食料品アクセス問題(薬師寺哲郎編「超高齢社会における食料品アクセス問題」所収) 2015、193-226

櫻井清一、ミネルヴァ書房、農産物直売所からみた農業と地域社会(桑子・浅川・塩見・櫻井著「日本農業への問いかけ」第 4 章) 2014、249-309

大浦裕二・高橋明広、筑波書房、農産物直売所向けの地元農産物集荷・加工販売(高橋信正編「農の付加価値を高める六次産業化の実践」所収) 2013、184-191

櫻井清一、農産物流通技術研究会、農業の多角化と農産物流通(農産物流通技術研究会編「農産物流通技術 2013」所収) 2013、8-13

藤田武弘、同文館出版、食料・農業と地域ブランド(大橋昭一編「現代の観光とブランド」所収) 2012、165-172

〔その他〕

ホームページ等

<http://cse.primafff.affrc.go.jp/katsuyat/>

(食料品アクセスマップ: 連携研究者・高橋克也作成)

## 6. 研究組織

(1) 研究代表者

櫻井 清一 (Sakurai, Seiichi)

千葉大学・大学院園芸学研究科・教授

研究者番号: 6 0 3 3 4 1 7 4

(2)研究分担者

栗原 伸一 (Kurihara, Shinichi)  
千葉大学・大学院園芸学研究科・教授  
研究者番号：80292671

丸山 敦史 (Maruyama, Atsushi)  
千葉大学・大学院園芸学研究科・准教授  
研究者番号：90292672

西山 未真 (Nishiyama, Mima)  
千葉大学・大学院園芸学研究科・准教授  
研究者番号：70323392

霜浦 森平 (Shimoura, Shinpei)  
千葉大学・大学院園芸学研究科・助教  
研究者番号：40372354

石田 貴士 (Ishida, Takashi)  
千葉大学・大学院園芸学研究科・助教  
研究者番号：30623467

新開 章司 (Shinkai, Shoji)  
福岡女子大学・国際文理学部・准教授  
研究者番号：30335997

大浦 裕二 (Ooura, Yuji)  
東京農業大学・国際食料情報学部・教授  
研究者番号：80355479

藤田 武弘 (Fujita, Takehiro)  
和歌山大学・観光学部・教授  
研究者番号：70244663

横山 繁樹 (Yokoyama, Shigeki)  
(独)国際農林水産業研究センター・社会科学領域・主任研究員  
研究者番号：30425590

久保 雄生 (Kubo, Takeo)  
山口県農林総合技術センター・経営技術研究室・専門研究員  
研究者番号：70539593

(3)連携研究者

高橋 克也 (Takahashi, Katsuya)  
農林水産政策研究所・食料・環境領域・主任研究官  
研究者番号：20371015

市田 知子 (Ichida Tomoko)  
明治大学・農学部・教授  
研究者番号：00356304

佐藤 和憲 (Sato, Kazunori)

岩手大学・農学部・教授  
研究者番号：80355601

(4)研究協力者

ガナス (Ganasi)  
千葉大学・大学院園芸学研究科・博士後期課程